2009年度の主な受賞・受章
（2009年8月～2010年7月）

平成21年度文化勲章　2009.11受章

原子分子材料科学高等研究機構 飯島 澄男 連携教授

カーボンナノチューブの発見と高分解能電子顕微鏡の開発

原子分子材料科学高等研究機構の飯島澄男連携教授が、平成21年度文化勲章受章者に選出され、平成21年11月3日に皇居で行われた文化勲章親授式において受章された。

飯島連携教授は、高分解能電子顕微鏡を駆使し、アーク放電装置にとりつけられた炭素電極を観測。放電後、陰極上にカーボンナノチューブが形成されることを発見。この発見は今日の爆発的に成長するナノチューブ研究の端緒であり、世界的に非常に高く評価されている。

平成21年度文化勲章　2009.11受章

日沼 頼夫 東北大学名誉教授

EBウィルスやATLウィルスの研究で優れた業績

日沼頼夫名誉教授は、エプスタイン・バー（EB）ウィルスと成人T細胞白血病（ATL）ウィルスの研究において優れた業績を残し、国内外で極めて高い評価を受けている。昭和56年、成人T細胞白血病（ATL）の原因となるウィルスを発見し、人間のがんが「レトロウィルス」によって起こることを世界で初めて明らかにした。エイズのレトロウィルス（HIV）が発見される3年も前の先駆的な業績として世界的に高く評価され、「文化功労賞」、「日本学士院賞及び恩賜賞」、今回の「文化勲章」の受章となった。日沼名誉教授の永年にわたる医学研究を通して育てられた多くの研究者は、多方面で活発な研究活動を行っている。

平成21年秋の紫綬褒章　2009.11受章

理学研究科附属大気海洋変動観測研究センター 中澤 高清 教授

地球環境科学及び気象学の発展に貢献

約30年前、まだ地球温暖化に対する認識が薄かった当時から、温室効果ガスの地球規模の循環について世界に先駆けて研究し、解明に取り組んできた功績が高く評価された。

2010年（第26回）日本国際賞　2010.1受賞

岩崎 俊一 東北大学名誉教授

ハードディスクの大容量化を実現

「日本国際賞」は、独創的で飛躍的な成果を挙げ、科学技術の分野で特に優れた研究者に贈られるもので、日本のノーベル賞とも言われている。（財）国際科学技術財団2010年（第26回）日本国際賞は、岩崎俊一名誉教授とスタンフォード大学生物学部教授のピーター・ヴィトーセク博士の2氏が受賞。岩崎名誉教授は、「工業生産・生産技術」分野の受賞で、垂直磁気記録方式の開発による高密度磁気記録技術への貢献度が評価された。岩崎名誉教授は、30年以上前の1977年に、それまでの「磁気記録方式」とは異なる「垂直磁気記録方式」を考案。ハードディスク装置の容量を大幅に増やした「垂直磁気記録方式」は、今やハードディスクをはじめ、パソコン・携帯などにも幅広く普及している。

Acta Materialia Gold Medal 賞　2010.3受賞

東北大学総長 井上 明久 教授

バルク金属ガラスに関する材料科学の発展に貢献

材料研究分野において卓越した能力とリーダーシップを発揮した研究者に授与される「Acta Materialia Gold Medal」を井上明久総長が受賞。バルク金属ガラスに関する材料科学の発展に、開拓者および牽引者として残した多くの優れた業績が評価されての受賞となった。本メダルは、Acta Materialia, Inc が1974年から毎年贈呈しているもので、過去の受賞者には世界各国の名だたる材料研究者が名を連ねている。本国からは、近藤淳東邦大学名誉教授（近藤効果の解明1991）、および、増本健本学名誉教授（アモルファス金属1998）に続いて3人目の栄誉となる。3月26日 The WPI-AIMR Annual Workshop (仙台国際センター)において授賞式が行われ、Acta Materialia の Executive Secretary でありカーネギー・メロン大学の Ted B. Massalski 教授により、メダルが授与された。

平成22年春の紫綬褒章　2010.4受章

電気通信研究所所長 中沢 正隆 教授

グローバルな情報通信ネットワークの構築に大きく貢献

光通信工学の分野において、EDFAと呼ばれる光ファイバ増幅器を世界で初めて実現するなど、光通信の高速化・大容量化につながる技術を開発。一連の研究は従来の光通信の歴史を塗り替え、光通信技術を革新させた。

日本学士院賞　2010.6受賞

大類 洋 東北大学名誉教授

革新的な生物機能性物質創製に成功

有機化学、生体分析化学、植物生理学など、広汎な学際領域における顕著な成果を通じ、生命科学の発展に貢献したことが評価された。新規生物機能性分子の創製とその応用に関する研究は、北原武東京大学名誉教授との共同受賞。

日本学士院エジンバラ公賞　2010.6受賞

西平 守孝 東北大学名誉教授

沖縄を中心とした日本のサンゴ礁の形成と保全の研究

サンゴ礁研究の基礎的資料の提示や棲み込み連鎖という概念を提唱。市民が手軽にサンゴ礁の保全に取り組める素地を世界的に提唱。移植サンゴの成長にともなって魚類が種・数ともに増加することを示した。